

鷹留城跡(高崎市)

たかとめ

築城年代:明応年間(1492年~1501年)、築城者:長野業尚

県道29号線を高崎方面から榛名町方面に進み、下室田小学校の少し先のここを右に入る



すぐ左手に交番があり、その一寸先の右手に行き先表示板があるという/正面のポールに交番のマークがある



ここを右手に入っていく/確かに行き先表示板がある



これがそれだが、劣化していてよく読めない/下の行に「鷹留城址」と記されているようだ



ここの正面の民家の間を直進し、右手に折れて進む



途中、鷹留城跡のある山(正面奥)が見えてくる/この道はその山の背後(北側)にあるフルーツラインという広域農道に出るようだ



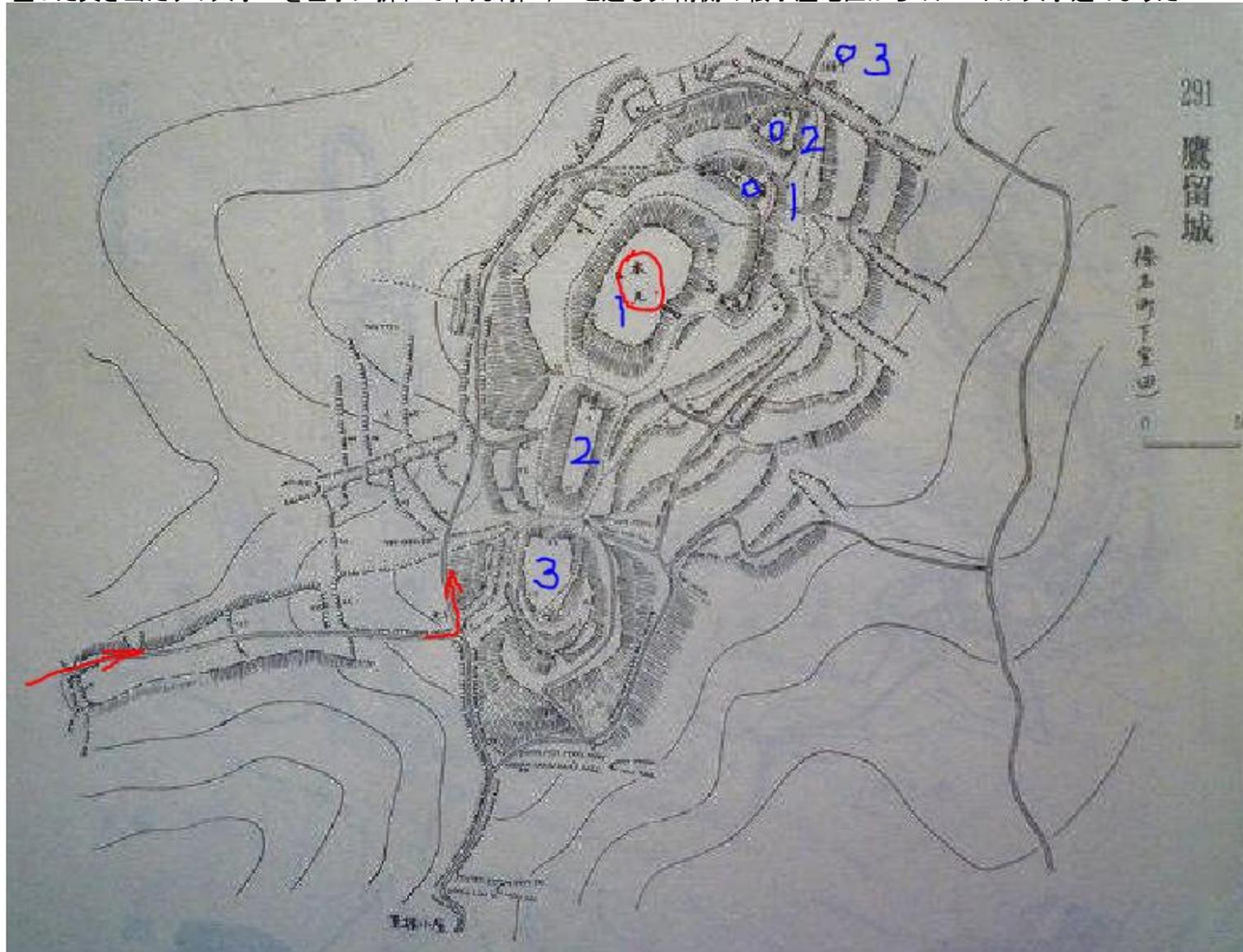
右手遠方に見える山に鷹留城跡がある



アップで見たところ



本丸(赤○)が郭1、その南に郭2、郭3/北から青○の3が「搦手」、2が「出郭2」、1が「出郭1」/左手西側からの登城ルートに登った突き当たりの大手口を左手に折れて本丸(郭1)へと進もう/南側の根小屋地区からのルートが大手道のような



縄張図/「日本城郭大系」より/上が北方向

さて、広域農道に出る前にある二股を右手に入っていく/正面が鷹留城跡のエリアで、この道が西側からの登城ルート



前方左手がマウンドとなっている



こな塩梅



切れ目もある/城郭の遺構だろうか



さて、正面に突き当たりが見える



左右に道が分かれ、正面に標柱が立っている/前方は郭3の城壘で、その大きな窪みは竪堀



標柱には「鷹留城 大手口跡」と記されている/右手の大きな窪みは豎堀



これがその豎堀/この上は郭3



左手を見たところ/こちら(北方向)から郭1へ進むこととする



右手を見たところ/先に一寸こちら(南方向)に行ってみよう



左手に廻り込んだところ/この城址には左下のような歌碑がそこここと立っている/前方で右手に下りて行く道が大手道のようにだ



とりあえず前方で左手に登ってみよう



すると、これは郭3を見上げたところ/城壘は段郭になっているようだ



さて、大手口に戻り、郭1方向へと進むと右手に竖堀がある/これは郭2と郭3との間の堀切が下ってきたもの



振り返ると豎堀はこの下へも続いている



更に少し進むと、やはり右手に豎堀がある



この豎堀の上は郭2にぶつかっている/前方が郭2の城堡



さて、更に北方向へ進もう/左手は土塁のような感じのマウンド



ここも堀(手前)と土塁(その向こう)のように見える



堀を横から見たところ/右手が郭1へ向かう道



これは土塁上から堀の向こうに郭1へ向かう道を見たところ



さて、更に北方向へ進むと左手に豎堀のような感じのところもあった



さて、いよいよ、ここを右手に上って行くと郭1へ至る/左手の道を行くと搦手への土橋へ出るが、後程行ってみよう



右手に上って行く



すると、ここは西側の帯郭で、正面に郭1(右手)と出郭1(左手)との間の堀切が見える



ここで左手を見たところ/この方向(北方向)には出郭1(右手)の向こうに出郭2、搦手と続く



同じく右手を見たところ/この方向(南方向)には郭1(左手)の向こうに郭2、郭3と続く/正面やや左手に郭1への虎口が見える



ここを登って行く



ここが郭1(本丸)/標柱、説明坂や石碑が立っている





榛名町指定史跡

鷹留城跡

鷹留城は、中世永祿期（一五五八―一五九）の中規模山城の典型であり、本丸以下の曲輪、虎口、大手口、搦手口、井戸、堀切等の各種遺構が原形に近く残っている点では県内希な城跡である。

明応年間（一四九二―一五〇〇）長野業尚築城。永祿九年（一五六六）九月武田信玄勢のために落城（城主業通）。長野氏四代七十余年の居城である。

並郭式であり、南北四三〇メートル、東西三〇〇メートル、本丸高さ東谷より七〇メートル。

東南の菩提寺長年寺に長野氏累代の墓がある。

榛名町教育委員会



これは鷹留城死歿者霊碑



「鷹留城長野霊神」と刻まれた石碑



南側から北方向を見たところ



振り返ると堀切の向こうに郭2が見える/階段を登った所にお墓がある



北側から南方向を見たところ



振り返ると堀切の向こうに出郭1が見える/その向こうには出郭2があり、二重堀切の様相



これは東側を見下ろしたところ/この下は帯郭となっており、武者溜りのようだ



これは西側を見下ろしたところ/こちらの下も帯郭の平場



さて、登って来た虎口を下る



この帯郭の更に下に広域農道が見える



これは帯郭で見た出郭1(正面)、右手が郭1



出郭1(左手)と郭1(右手)との間の堀切を見たところ



左手を見ると前方に出郭1(右手)の向こうに出郭2が見える



これは出郭2(左手)と出郭1(右手)との間の堀切を見たところ



出郭2の坂虎口を登ってみよう



左手を見下ろすと下に出郭2の西側の帯郭が見える/右上方向へ進むと搦手がある



これは出郭2上で南側から北方向を見たところ



振り返ると出郭1とその間の堀切が見える



これは出郭2の北端から北方向を見たところ/下方を見ると堀切とそこを渡る土橋がある/前方が搦手となる



これは搦手側から、その土橋と前方に出郭2を見たところ



さて、先程の、搦手への土橋へ出る道(左手)を進んでみよう



北方向に進んで行くと、こんな一寸した平場がある/腰郭なのであろうか



右手の一段上は西側の帯郭



その先、左手は土塁のようだ



前方が先程見た出郭2(右手)と搦手(左手)との間の堀切を渡る土橋



これが土橋/前方は搦手



左手から土橋を見たところ/右手が出郭2、左手が搦手



そこで振り返ってみたところ/堀切の下方は広域農道



右手から土橋を見たところ/左手が出郭2、右手が搦手



そこで振り返って見たところ



これはその土橋を渡ってから土橋と前方の出郭2を見たところ



土橋をアップで見たところ



さて、搦手を北方向に進んでみる



この先は広域農道に下っているようだ



さて、これは出郭2の東側にある腰郭で南方向を見たところ/右手の出郭2の前方に出郭1、郭1と続く



正面は出郭2(右手)と堀切を挟んだ出郭1



これは出郭1(左手)と出郭2(右手)の間の堀切を見たところ



出郭1の虎口を右手に登ってみよう



出郭1に登り、東側から西方向に見たところ/前方に祠がある



こんな感じ



反対に西側から東方向を見たところ



これは南方向の郭1とその間の堀切を見たところ



これは北方向の出郭2とその間の堀切を見たところ



これは東側の腰郭を見下ろしたところで、その下方も何段かの段郭となっている



さて、出郭1を下りて正面に郭1、その右手に出郭1との間の堀切を見たところ/左手を進むと東側の帯郭となる



これは出郭1と郭1との間の堀切が東側に廻り込んだ部分に沿った土塁/前方が南方向



土塁(左手)が郭1(右手)を取り巻くように南方向に延びている



東側の帯郭に出る/正面遠方に郭2が見える



この帯郭は武者溜りらしい/右手が郭1、前方が郭2



さて、これは出郭2と搦手の土橋の付近から東方向に見たところで、その堀切が豎堀状に下っている



こんな感じ



少し下りると前方右手に平場(段郭)がある



その段郭の中段あたりを南方向に横断するように進む通路がある



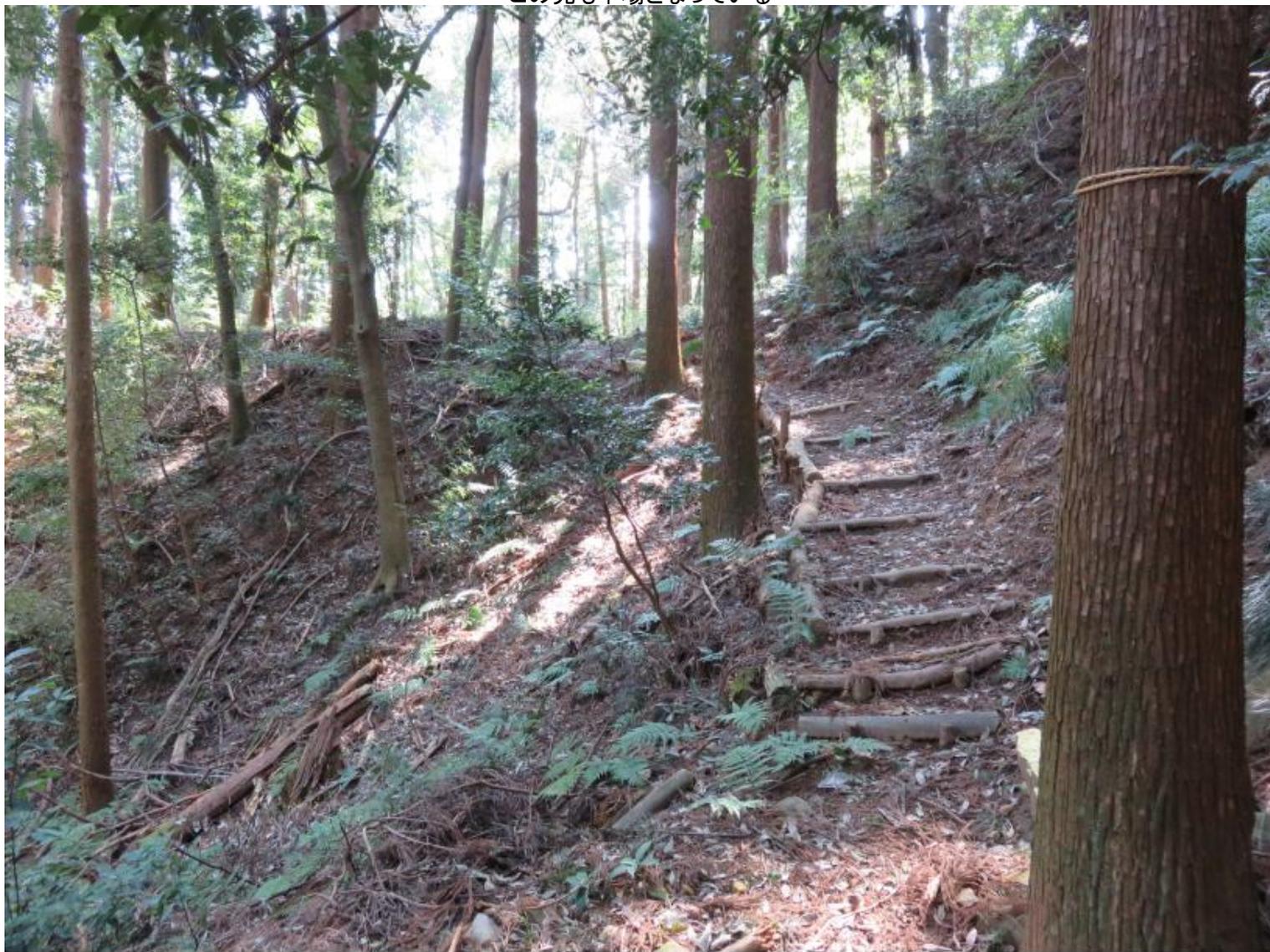
こんな感じで続いている



こななもの



この先も平場となっている



そしてここを上ると東側の帯郭に出る



これが先程の、東側の帯郭/右手が郭1、前方は郭2



これは振り返って北方向を見たところ/正面右手が今来たルート/正面左手は先程の土塁のあったルート



正面は郭2/右手に郭1と郭2の間の堀切が見える/左手にはこの帯郭が続いている



これは東側から郭1を見たところ/正面に階段が見える



こんな感じ



これはそこで振り返って東側を見下ろしたところ/階段があり、この下方には段郭が幾つも見える



すぐ下の段郭に下りたところ/この下にも平場が見えている



こんなものもある/右手は今下りた階段



そこで右手(北方向)を見たところ/段郭の状況が見て取れる



右下の段郭を見たところ



その反対側(南方向)を見たところ



これはそこで東方向の段郭を見下ろしたところ



さて、郭1の虎口から西側の帯郭を南方向に進んでみよう



郭1を取り巻く感じで進む



正面が郭2/左手に郭1とその間の堀切がある



郭2の上には全山を城址公園として一般に開放、独力で管理に努めたという人のお墓がある/北側から南方向を見たところ



振り返って今来た方向を見たところ/右手が郭1



これは右手の郭1と、その間にある堀切を見たところ



これはその更に右手、郭1の東側の帯郭を見たところ



これは南側から北方向を見たところ



そこで振り返って南方向を見たところ/正面は郭3とその間にある堀切



これは西方向を見下ろしたところで、窪みになっているところは豎堀



アップで見たところ/これは最初に大手口から進んだ右手で郭2の城壘に突き当たっているのが見えた豎堀を上から見たところ



さて、郭2を下りて郭2の西側から郭3方向へ行ってみよう



郭2(左手)と郭3(右手)とその間の堀切が見えてきた



堀切を西側から東方向に見たところ/左手が郭2、右手が郭3



反対に堀切を東側から西方向に見たところ/左手が郭3、右手が郭2



アップで見たところ



その先はこのように堅堀となって西方向へ下っている/これも最初に大手口から進んですぐ右手に見えた堅堀を上から見たところ



この左手を見ると、一寸した平場と土塁のようなマウンド(右手)がある/左手は郭3の城塁



右手に竖堀を見る



さて、これは郭3で北側から南方向を見たところ



振り返ると、北方向に郭2とその間の堀切が見える



これは南側から北方向に見たところ



振り返って南方向を見下ろすと、この下にも何段かの平場が見える



その平場に下りてみる



豎堀のようなものもある/左手は郭3の城壘



これはもう一段下の平場に下りてみたところ



このような石が積まれている所もある



その下もこんな感じ/この更に下が最初に大手口から郭3を右手に廻り込んだ所



さて、ここは下室田小学校の手前で県道29号線に面した所に所在する、鷹留城主でもあった長野氏累代の菩提寺の長年寺



山門



本堂



ここに入って行く



これが長野氏累代の墓所





鎌倉町指定史跡

長年寺長野氏の墓

中央の長野常雄墓は、長年寺
 開基長野常雄の墓である。左右に
 一基づつ累代の墓が並んでいて、
 五輪塔型石の墓下段である方形
 石の地輪正面上に、それぞれ名字が
 刻まれている。

- 長野常雄
- 長野常業
- 長野常成
- 長野常隆
- 長野常深
- 長野常成
- 長野常隆
- 長野常深
- 長野常成
- 長野常隆
- 長野常深

委員会

...定...
十四年二月十日指定...
...

榛名町指定史跡

長年寺長野氏の墓

中央が初代鷹留城主で、長年寺開基、長野業尚の墓である。左右に三基つつ累代の墓が並んでいる。五輪塔墓石の最下段である方形石の地輪正面にそれぞれ戒名が刻まれている。

- | | |
|--------|------|
| 慶岩長善庵主 | 長野業尚 |
| 南方長宗庵主 | 長野憲業 |
| 以山長伝居士 | 長野業氏 |
| 一清長純居士 | 長野業政 |
| 傑山長寅居士 | 長野業固 |
| 一溪長派居士 | 長野業茂 |
| 安山長康居士 | 長野業統 |



榛名町教育委員会

参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/004gunma/250takatome/takatome.html>

<http://www65.tok2.com/home2/yogokun/takatome.htm>

<http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Gunma/Takatome/>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/kouzuke/takatome-ijo/>

<http://siromeguri.sakura.ne.jp/nihonnoiyouseki/kanntoukousinnetu/kouzuke/takatomejyou/takatomejyou.html>

https://blogs.yahoo.co.jp/s04hi992ma/19746712.html?_yjsp=6be555WZ5Z%2B06Leh

<http://kdshiro.blog.fc2.com/blog-entry-1817.html>

http://outdoor.geocities.jp/koiyo_annai/3_kanto/12_gunma/takatome_shiro.html

http://castle.slowstandard.com/10kanto/17gunma/post_829.html

<http://minowa1059.wiki.fc2.com/wiki/%E9%B7%B9%E7%95%99%E5%9F%8E>

<http://www9.wind.ne.jp/fujin/rekisi/siro/haruna/takatome/takatome.htm>

<http://hanatanbou2.web.fc2.com/takatomezyo.htm>

<http://funayama-shika-2.blog.so-net.ne.jp/2013-03-14>

<http://yaminabe36.tuzigiri.com/gunma3HP/takadome.htm>

